

# 利用者の笑顔を取り戻すために

## NPO法人なごみ

宮城県の北東端に位置する気仙沼市は、三月十一日に津波の影響で多くの建物が流され、町は未だに混沌としています。宮城県気仙沼市と岩手県一関市で高齢者のグループホームやデイサービスを運営しているNPO法人なごみも、今回の震災で、気仙沼市本吉町の施設四棟を流出しています。

なごみは平成十六年十一月二十五日に設立し、震災前には、グループホーム五棟、デイサービスを一棟、小規模多機能施設を一棟、ケアプラセンタ―を二棟運営していました。

流出した施設が建っていた気仙沼市本吉町後田は、防災マップでもここまでの被害はないだろうと表示されていた場所でした。しかし、施設四棟は、すべて津波で流されてしまいました。



▲ 4施設が流失した本吉町の跡地

しかもその中の一棟「ぼらんデイサービス」は、今年の七月に新築したばかりの施設でした。

当初は利用者が亡くなったこともあり、職員や利用者は気落ちし、本当に悲しく大変な日々を過ごしていました。流失した施設で暮らしていた利用者は、震災後、津波の被害がなかった気仙沼市東新城にある「グループホームぼらん気仙沼」に移り、定員九名のところ二十四名の利用者が暮らす状況となりました。建物にゆとりがあるといっても、長期に涉るとなると精神的負担も計り知れません。利用者や職員の為にも一刻も早く高齢者の居場所を作らなければなりません。

### 素早い対応で再開へ

そこで理事であり、統括本部長である木村伸之さんは、「利用者の生活の質や快適性が衰えないよう努力するとともに、新たな施設を建築することにより早く取り組みました。」

まず、津波に流されたデイサービス施設に代わり、賃貸の建物を改修してデイサービス事業を再開しました。また、流されたグループホーム二棟の対処として、一棟は岩手県一関市室根町に法人で所有する建物を改装し、仮施設として運営しているほか、震災当初からもう一棟のグループホームを

建築しようとする動き、現在も十八名がともに過ごしている「グループホームぼらん気仙沼」の隣の敷地内に、新しいグループホームを六月に着工。八月中には完成する予定です。

このように組織としての素早い決断力が、施設の利用者や地域の皆さんに



▲ 統括本部長の木村伸之さんと事務局スタッフの齋藤優香さん

も力強い存在となっています。しかし、流された建物の借入も残っていた為、資金対策に毎日奔走されています。それでも利用者の笑顔を取り戻すために職員みんなで復興に励んでいます。

### グループホームへの思い

木村さんには高齢者施設にこだわりを持つことになった体験がありました。木村さんの仙台の祖母が介護施設を利用する中で、せっかく施設を探して入所しても、祖母と施設が合わず出入りを繰り返す、計七か所を転々としたことがずっと胸に引っかかっています。その後、宅建業をしていた木村さんが福祉施設の建築に関わったことで、祖母への罪滅ぼしも含め納得の行

く高齢者施設を自ら運営する決意をしたのです。

これまでグループホームは利用者の生活の質を高められるような、高齢者のオアシス的な居場所であることを心がけて、建物にこだわりを持って建築してきました。その為、グループホーム内は廊下やホール等ゆとりがあるスペースが多く、明るく居心地が良い空間になっています。

「震災から多くのことを学びました。毎日、再開へ向けて動き回っている中で、二十四人の利用者が食卓を囲んで食事をしている笑顔を見るときとても励みになりました。今後は、NPOとして復興への活動や、外に向かって行う活動も積極的に行っていきたい。」と木村さん。

▼ 東新城に建築中のグループホーム



まずは、気仙沼市の委託事業で仮設住宅の見直しなど、震災の復興支援の一助となる地域の活性化、復元への道を目指します。

NPO法人なごみ

〒九八八-〇〇五二

宮城県気仙沼市田中三六番地一

TEL: 〇二二六-二三一七五三一